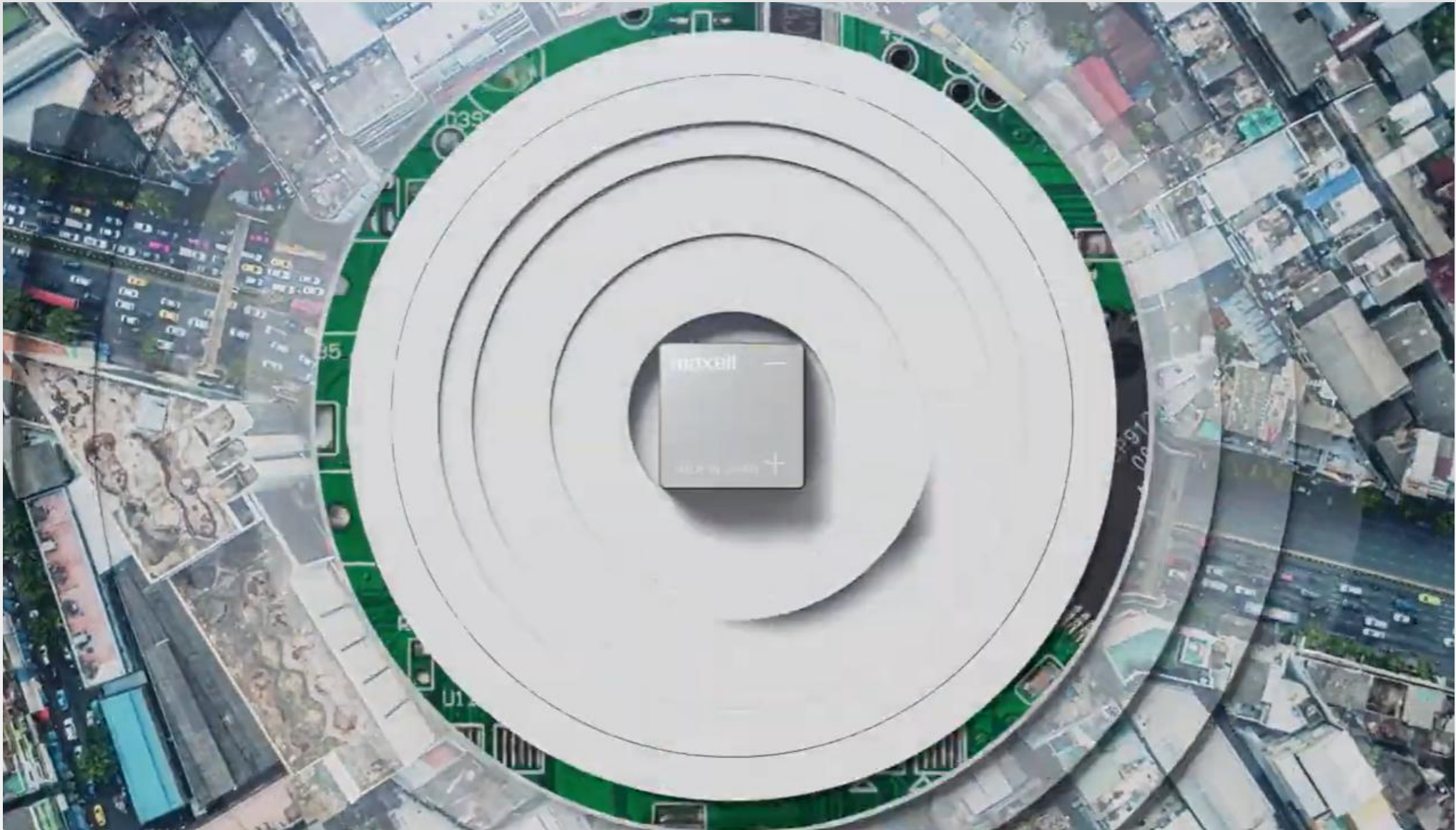


会社説明資料

コーポレートバイライン「Micro batteries. Maximum impact.」ムービーをご覧ください



INDEX

01 基本情報

- ・社名の由来
- ・変わるマクセル
- ・マクセルの顧客対応モデル

02 事業概要

- ・事業セグメント
- ・各セグメントの代表製品
- ・需要が高まる高信頼の小型電池
- ・さまざまな問題を解決する小型の全固体電池
- ・アナログコア技術が高信頼の小型電池を生み出す
- ・「規模の拡大」と「先進性の追求」
- ・マクセルは、“高信頼の小型電池領域”のフロントランナーへ

03 中期経営計画 MEX26

- ・MEX26の2年目の進捗
- ・MEX26最終年度とその先の本格的な
成長フェーズに向けて

04 Appendix

- ・会社概要
- ・歴史と沿革
- ・グループ拠点・地域別売上高比率
- ・株式情報

基本情報

SECTION

01

マクセルという社名は創業製品である乾電池のブランド名

“Maximum capacity dry cell”

（最高の性能を持った乾電池）に由来します

1961



マクセルならではの
ユニークな製品を世界へ。
これまでも、これからも。



メモリー＆モバイル製品で
世の中を豊かに



乾電池



カセットテープ



ビデオテープ



フロッピーディスク



CD-R



DVD-R

独自のアナログコア技術で
持続可能な社会に貢献



耐熱コイン形リチウム電池



円筒形リチウム電池



建築・建材用テープ



半導体製造工程用テープ



LEDヘッドランプリンズ



車載カメラレンズユニット

個々の顧客との密接な関係構築により、困りごとや世の中の隠れたニーズ、見えないシーズをキャッチし、蓄積されたアナログコア技術を最先端のデジタル技術と融合させた高付加価値製品で期待を超えるビジネスを展開しています。



事業概要

SECTION

02

■ **価値共創事業** 売上：179億円
営業利益：8億円

電気に関わるモノづくりを通して、豊かで快適な毎日に貢献

社会的価値

電気とともに暮らしを支える

環境価値

省エネ型生活をサポート



■ 電線インフラ

■ **光学・システム** 売上：364億円
営業利益：35億円

高精度なプラスチックレンズ及び半導体開発支援で
モビリティ多様化と省エネに寄与

社会的価値

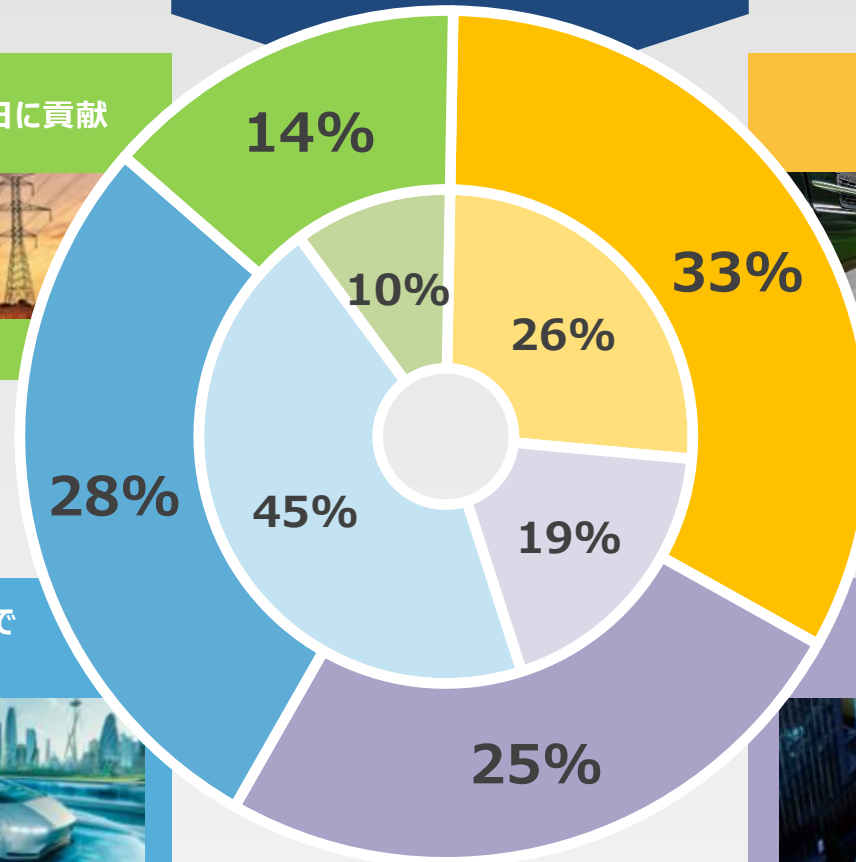
モビリティの安全性向上、次世代半導体に貢献

環境価値

自動車、半導体関連組込み製品による省エネ



2025年度
売上高：1,294億円
営業利益：79億円



外円：売上高構成比
内円：営業利益構成比

■ **エネルギー** 売上：425億円
営業利益：21億円

小型・高容量な電池の利活用で、社会を安全に

社会的価値

安心・安全な社会、健康寿命の延伸、医療への貢献

環境価値

エネルギー効率の最大化



■ **機能性部材料** 売上：326億円
営業利益：15億円

世界各地の生活・産業における高機能粘着材料の
利活用で、健康と経済発展に寄与

社会的価値

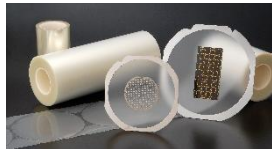
粘着材料の機能を暮らしと産業で利活用

環境価値

住宅・建物の省エネ化



各セグメントの代表製品

セグメント	サブセグメント	代表製品		
エネルギー	一次電池			2025年 直接式TPMSにおける グローバルシェア 約80% No.1
	二次電池	コイン形リチウム電池 用途：持続血糖モニタリング（CGM） など	耐熱コイン形リチウム電池 用途：タイヤ空気圧監視システム（TPMS） など	
機能性部材料	粘着テープ		2025年国内シェア 約35% No.2	
	産業用部材	建築・建材用テープ 用途：住宅、建物の気密性向上 など		塗布型セパレータ 用途：車載用のリチウムイオン電池
光学・システム	車載光学部品			
	半導体関連	車載カメラレンズユニット 用途：ADAS（先進運転支援システム） など	LEDヘッドランプレンズ 用途：自動車のヘッドライト など	半導体DMS 用途：半導体製造装置 など
アナログコア事業群				
価値共創事業	健康・理美容 電設工具			2025年国内シェア 約60% No.1
		往復式シェーバー 用途：メンズグルーミング など	電設工具 用途：高圧電線の圧着・切断 など	

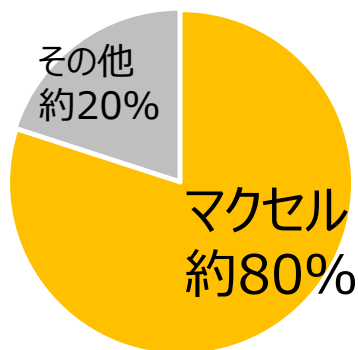
※シェアはマクセル調べ

需要が高まる高信頼の小型電池（一次電池）

- さまざまな電子機器やセンサーなどの進化により、高信頼の小型電池の需要は拡大
- 使い切りの一次電池においても新たな用途が増加し、小型の電力インフラとして重要な役割を担っている

耐熱コイン形リチウム電池

想定グローバル市場シェア*



- TPMS(Tire Pressure Monitoring System) に使用される一次電池
- 厳しい環境でもパフォーマンスを発揮
 - 温度：-40℃～+125℃
 - 加速度：2,000G（タイヤ直貼り用途3,000G）
- グローバルシェア：約80%(トップシェア)

医療機器用一次電池

CGM市場規模*



- CGM(Continuous Glucose Monitoring) 連続式血糖値モニター用一次電池
- 耐熱CRで培った封止技術、長寿命技術で医療用途の電池に求められる高い信頼性を実現
- 糖尿病患者の増加とCGMのコストダウンで需要拡大

*マクセル調べ

■ ファクトリーオートメーションにおける課題解決



【顧客課題】

- ・動作スピードの高速化に向けた部品の小型化や点数削減
- ・メンテナンス時の稼働停止時間の削減(メンテナンス工数削減)

【全固体電池による提供価値】

- ・ハーネスなどの部品点数削減による小型化と耐久性向上を実現
- ・長寿命化によるメンテナンス工数削減

産業用ロボットの課題と全固体電池ソリューション

全固体電池を産業用ロボットに適用

メンテナンス工数の削減

生産性の向上

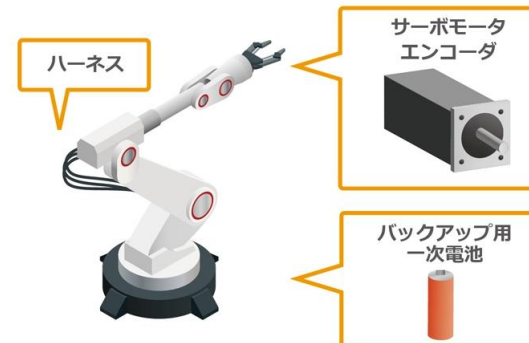
課題

一般的な一次電池の温度制限
上限温度：60～85℃

現状の産業用ロボット

サーボモータ エンコーダ ハーネス 一次電池

バックアップ用電池は1～3年ごとに交換が必要



全固体電池ソリューション

105℃で10年間連続で保管しても
バックアップ用途に適用可能

全固体電池を搭載した産業用ロボット

サーボモータ エンコーダ 全固体電池

電池交換によるメンテナンス工数を削減
構成部品の一体化が可能



乾電池やカセットテープの製造で創業以来マクセルが独自に磨いてきた技術



アナログコア技術



混合分散
(まぜる)

素材の大きさ、硬さ、液体の粘度に関わらず均一に混ぜ合わせる技術



精密塗布
(ぬる)

あらゆる粘度の塗料や粘着剤を広範囲に均一な厚さで塗る技術



高精度成形
(かためる)

カセットテープやディスク、レンズ製造で培った精密な金型製造技術と成形技術

アナログコア技術はアナログとデジタルをつなぎ、さらにデジタル技術だけでは到達しえない、
複雑で繊細な領域のモノづくりを実現させる、かけがえのない技術

－ 規模の拡大 －

「マクセルサクラ」との連携

■ ラインアップ/用途拡充

信頼性の高い小型電池のラインアップを拡充し、産業用/医療用などに加え、新たな領域を開拓

■ QCD^{*1}向上と新製品上市

継続的な技術開発により、既存品のQCDを向上し、これまでになかった性能を持つ次世代の電池を提供

－ 先進性の追求 －

ベンチャーキャピタル「JAFCO」との連携

■ 電池の性能向上

新材料や構造技術の進化により、既存品のQCDを向上し、これまでになかった性能を持つ次世代の電池を提供

■ 電池周辺技術との連携

センサー、通信、ハーベスティング、BMS^{*2}などの周辺技術と連携し、信頼性の高い小型電池を用いたソリューション/サービスを提供

*1 : QCD:品質(Quality)、コスト(Cost)、納期(Delivery)

*2 : BMS:バッテリーマネジメントシステム

外部連携による
規模の拡大



マクセル独自の
アナログコア技術



外部先端技術の
獲得

「高信頼の小型電池領域」のフロントランナーへ

マクセルは、“高信頼の小型電池領域”のフロンランナーへ

コーポレートバイライン「Micro batteries. Maximum impact.」



**Micro batteries.
Maximum impact.**

マクセルのはじまりは「電池」でした。

進化していく社会の中で、
私たちの小さな電池は、
さまざまなモノを動かしてきました。

時には見えない存在であっても、
“なくてはならない”価値を創造するために。

私たちは挑みます。

インパクトを、世界中のビジネスへ。
「マクセル」らしく、これからも。

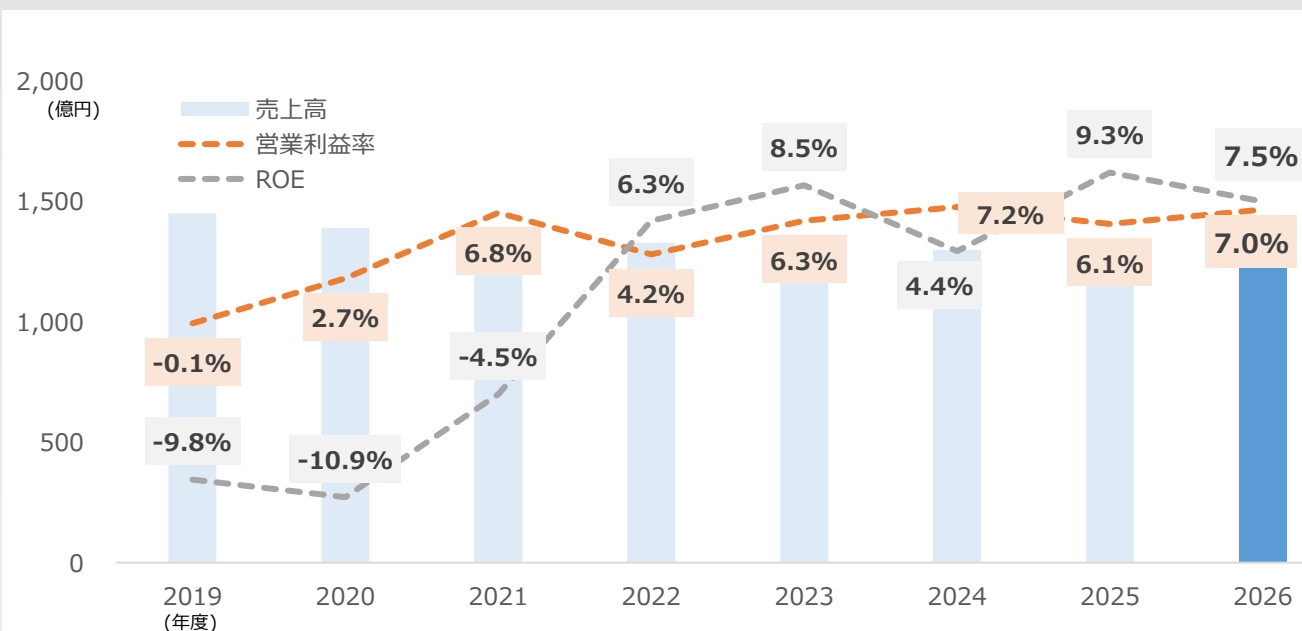
中期経営計画 MEX26 (2024年度～2026年度)

SECTION

03

MEX26の2年目の進捗

- 【前中計】：MEX23では、事業規模の拡大から価値創出へ方針変更し、不採算事業に対する改革を断行、収益力の回復に注力
- 【現中計】：MEX26では、企業価値向上に向けた事業戦略と財務戦略の実行により、角形リチウムイオン電池の生産終了、村田製作所からの一次電池事業譲受、光学レンズユニット事業の子会社への移管、EF2(精密電鍍製品)事業の売却を実施



MEX23
収益力を回復
✓ 不採算事業の対策
✓ 経費効率の向上

MEX26
成長準備を完遂
✓ 成長事業の明確化
✓ 成長投資の実施
✓ 資本効率の向上

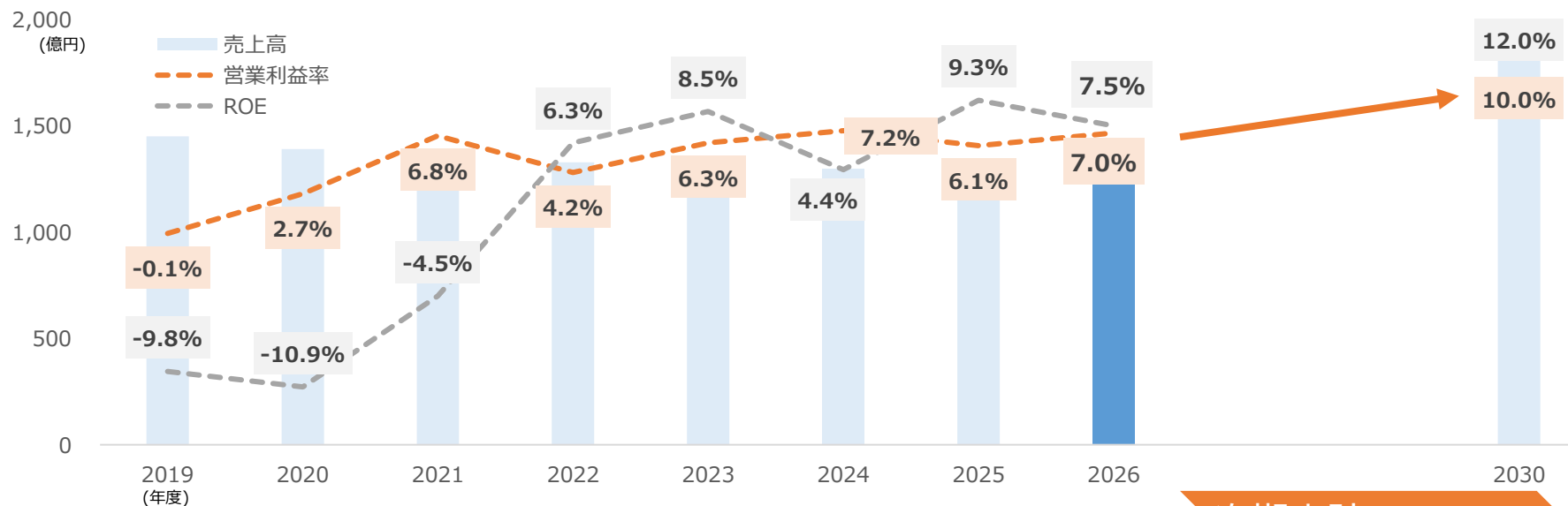
MEX26

事業戦略 収益成長のための	既存事業 (ポートフォリオ)	メリハリ付けは継続しつつ、注力3分野で事業拡大
	新事業	全固体電池の事業化に注力しつつ、続くテーマを立ち上げ
	営業	技術営業人財を強化しつつ、グローバル営業体制により拡販
	経営基盤	基幹システムの共通化を通じて、業務効率化、人財育成に注力
財務戦略 最大企業価値を	成長投資	成長分野へ積極投資、対MEX23比2倍超の350億円
	株主還元	総還元性向100%以上、資本効率を向上

「中期経営計画 MEX26 資料」より一部抜粋

MEX26 最終年度とその先の本格的な成長フェーズに向けて

- 足元では銀価格の高騰、半導体市況回復遅れなどによって業績面で計画未達となったものの、戦略面ではメリハリ付けの明確化、積極的株主還元による資本効率向上など、中長期的な企業価値向上策を着実に進行
- 今後は、全固体電池を含む高信頼の小型電池事業を成長のメインドライバーとして集中投資していくと同時に、積極的な株主還元を継続し、本格的な成長フェーズへと移行していく



MEX23

収益力を回復

- ✓ 不採算事業の対策
- ✓ 経費効率の向上

MEX26

成長準備を完遂

- ✓ 成長事業の明確化
- ✓ 成長投資の実施
- ✓ 資本効率の向上

次期中計

本格的な成長の実現

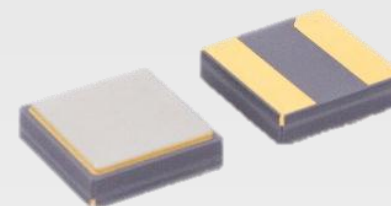
- ✓ 全固体電池を含む小型電池領域のフロントランナーへ
- ✓ 成長実現により企業価値最大化を実現

「中期経営計画 MEX26 資料」より一部抜粋

1961



マクセルならではの
ユニークな製品を世界へ。
これまでも、これからも。



Appendix

SECTION

04

(2026年3月31日時点)

社名	マクセル株式会社 (証券コード：6810 東京証券取引所 プライム市場)	 マクセル株式会社 東京本社（東京都港区）
英文社名	Maxell, Ltd.	
本社	【東京本社】 〒108-8248 東京都港区港南二丁目16番2号 太陽生命品川ビル21F	 マクセル株式会社 京都本社（京都府大山崎町）
	【京都本社】 〒618-8525 京都府乙訓郡大山崎町大山崎小泉 1 番地	
設立	1960年9月（創業1961年2月）	
資本金	12,203百万円	
代表取締役	取締役社長 中村 啓次	
連結従業員数 (パートアルバイトなど除く)	連結：3,765名、単独：1,286名	
決算期	3月	
主な国内拠点	東京、山形、宮城、福島、長野、神奈川、埼玉、山梨、愛知、岐阜、三重、大阪、京都、兵庫、福岡	
主な海外拠点	生産拠点：中国、マレーシア、インドネシア 販売拠点：米国、カナダ、パナマ、英国、ドイツ、ハンガリー、香港、中国、台湾、シンガポール、タイ、ベトナム、インド ※国または地域	
国内連結子会社	マクセルイズミ株式会社 マクセルクレハ株式会社 マクセルフロンティア株式会社 宇部マクセル京都株式会社 マクセルサクラ株式会社 (・家庭用電気機器、電設工具) (・各種工業用ゴム製品) (・超精密金型・プラスチックレンズ成形・半導体関連組込みシステム(DMS: Design & Manufacturing Service)) (・塗布型セパレータ) (・一次電池)	

歴史と沿革

1961年	日東電気工業(株)(現 日東電工(株))から、乾電池・磁気テープ部門が独立し、マクセル電気工業(株)創業
1964年	社名を日立マクセル(株)に変更
1980年	東京・大阪証券取引所株式市場第一部に上場
2007年	(株)スリオンテックを子会社化
2010年	(株)日立製作所の完全子会社化により上場廃止
2011年	日立マクセルエナジー(株)を新設分割し、電池事業を承継
2012年	国内連結子会社 5 社と経営統合
2013年	日立マクセルエナジー(株)を経営統合 日立コンシューマエレクトロニクス(株)より液晶プロジェクター事業等を承継
2014年	東京証券取引所市場第一部に再上場
2017年	持株会社体制へ移行し社名をマクセルホールディングス(株)に変更 日立製作所が保有する当社株式の売り出しを発表(保有比率：14.62%→3.01%) ルネサスセミコンダクターパッケージ & テストソリューションズ(株)の一部事業譲受により、マクセルシステムテック(株)を設立
2018年	(株)GSユアサから産業電池電源関連の特機事業を譲受 (株)泉精器製作所(現 マクセルイズミ(株))を株式取得により子会社化 宇部マクセル京都(株)を設立
2019年	クレハエラストマー(株)(現 マクセルクレハ(株))を株式取得により子会社化 ビークルエナジージャパン(株)に共同出資
2020年	マクセル情映テック(株)とマクセルシステムテック(株)を合併しマクセルフロンティア(株)を設立
2021年	マクセルホールディングス(株)がマクセル(株)を吸収合併し、持株会社体制を解消するとともに、社名をマクセル(株)に変更
2022年	市場区分見直しに伴い、東京証券取引所市場第一部からプライム市場に移行
2023年	(株)電響社と業務提携し、国内BtoC販売事業の商品企画・開発・営業機能を移管
2026年	(株)村田製作所及び(株)東北村田製作所の一次電池事業の譲受に伴う株式取得により、マクセルサクラ(株)を子会社化

1963年 **国内初**
アルカリ乾電池を生産



1966年 **国内初**
カセットテープ商品化



1976年 **世界初**
フロッピーディスク商品化

1983年 **日本初**
メモリバックアップ用
塩化チオニルリチウム電池 生産開始

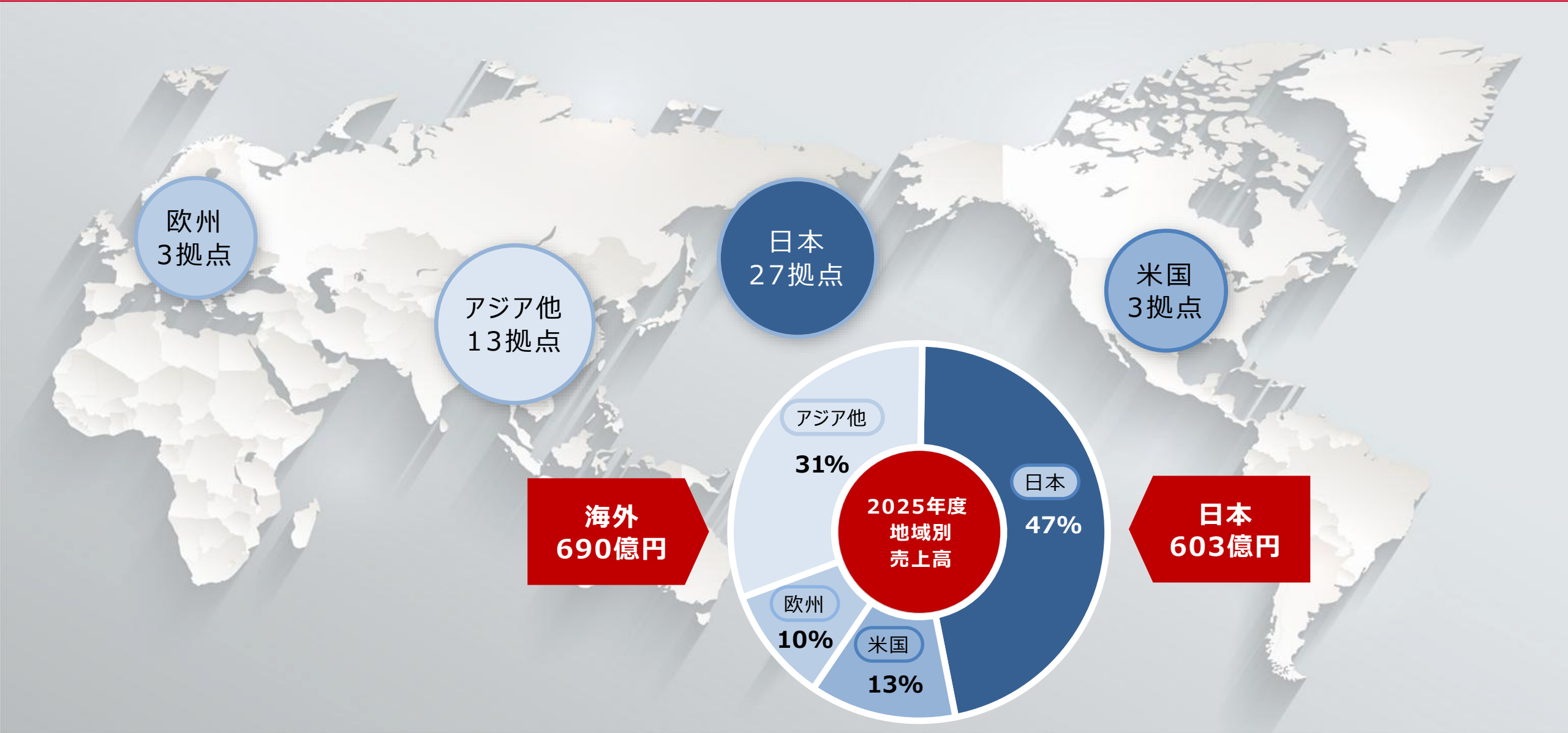
1995年 **世界初**
光変調オーバーライト方式
光磁気ディスク商品化

1998年 **世界初**
書換型DVD-RAM商品化

2021年 **世界初**
基板への表面実装可能なセラミック
パッケージ型硫化物系全固体電池を開発

2024年
全固体電池の作動上限温度を
150℃に引き上げる技術開発に成功

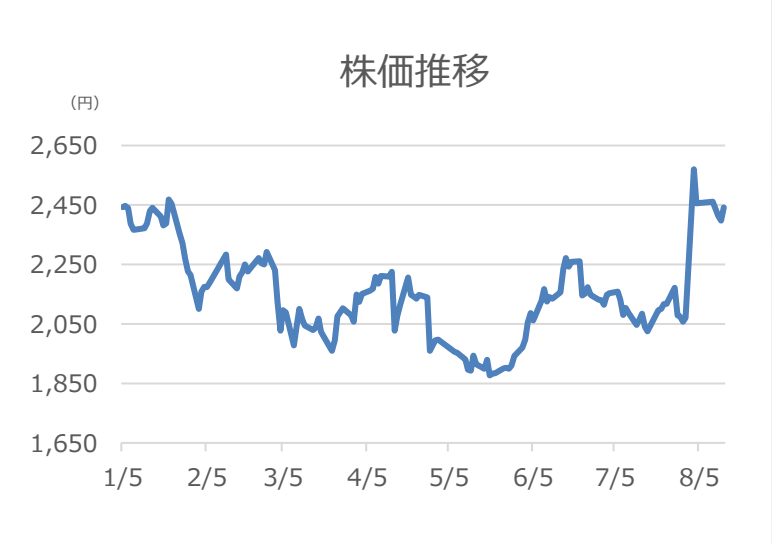
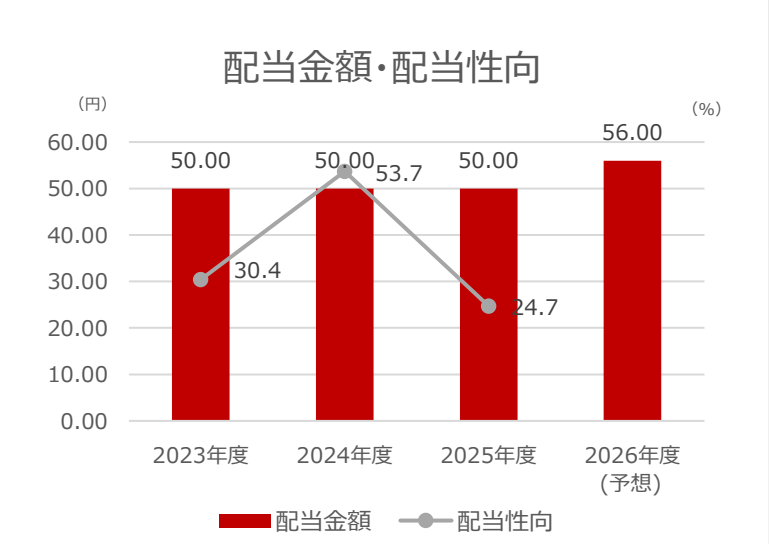
2025年
IoTデバイスの主電源用途に使用可能な
コイン形全固体電池を開発



■ 配当の基本方針

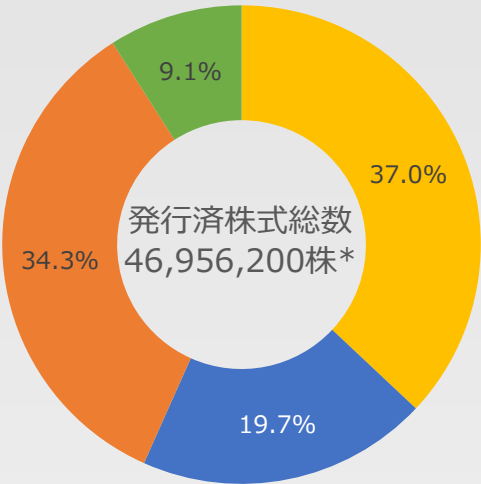
- ・配当性向30～40%
- ・足元の設備投資資金
- ・将来の事業展開を見据えた投資資金
- ・株主の皆様への還元

配当(普通配当)	2026年度
中間(予想)	28円
期末(予想)	28円
合計(予想)	56円



株主構成

(2026年3月31日時点)



発行済株式総数
46,956,200株*

- 外国法人等
- 金融機関・金融商品取引業者
- 個人・その他
- 国内法人

株主数 18,825名

*自己株式消却(2026年5月29日)にともない、40,664,000株に減少

将来にわたる予想の部分につきましては、皆さまの投資の参考資料として、
任意にご提供するものであり、当社の推測・予測に基づくものであります。
従いまして、確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なる結果となる可能性があることをご認識のうえ、ご活用ください。

maxell
Within, the Future

Micro batteries.
Maximum impact.
